

株式会社佐々木印刷

岩手県北上市

生産性向上

需要獲得

担い手確保

ものづくり

サービス

ポイント

地球環境にやさしい製品づくりを経営理念とし、台紙不要のラベル・シールを開発、主力製品に成長している

- デジタル印刷機導入により、多品種・少量受注が実現し、付加価値向上
- 企業内ゼロエミッションの実現と太陽光発電による経費節減、業務効率化
- 地域企業の資源を活用し、被災企業、福祉作業所連携による新たなビジネスモデルの確立

企業基本情報

所在地	岩手県北上市口内町堰根 91-4
電話/FAX	0197-69-2111/0197-69-2126
URL	http://sasaki-insatsu.com
代表者	代表取締役社長 佐々木 信雄
設立	1980年
資本金	1,500万円
従業員数	20人



会社概要

1980年、ラベル・シール印刷業を創業し、順調に成長してきた。しかし、海外の格安製品に対抗するため、1991年から台紙不要シールの開発に着手。1998年に特許出願するとともに商品化し、全国自治体のごみ処理に使用される。また、スーパー等で使用するラベラーで貼付する製品を開発し大手メーカーの商品ラベルに使用されるほか、安全・安心な「糊」を使用する製品も開発し、「江刺リンゴ」など食品に使用されている。



会社外観

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

▶▶▶ デジタル印刷機導入による高付加価値化

開発製品の高付加価値化を図るため、2015年2月にデジタル印刷機を導入。可変情報機能を付加することで多品種、少量受注に対応できることとなり、大手企業等からの新たな受注につながった。また、「連ラベル」は、2014年から福島原発の復旧作業に従事する作業員の防災服の識別表示に採用されている。さらに、小ロット生産が可能なおかげで、自社商品の開発に取り組むことが可能になり、次の項で述べる新たなビジネスモデルの実施により、より高付加価値化が実現するものである。



デジタル印刷機

▶▶▶ 省資源製品と企業内ゼロエミッションと太陽光発電で効率化

同社開発のラベルは、原料で台紙分60%を削減し業界では画期的なもので、供給先の廃棄物削減にも大きく貢献している。また、同社工場で発生する紙端材廃棄物を燃料とする暖房用ボイラーを導入することで、廃棄物処理費と燃料費を年間700万円節減。さらに、太陽光発電パネル40キロを設置し、年間150万円売電。また社内灯などすべてをLEDに切り替える等、省エネ効果は年間850万円となり、経常利益向上に繋がっている。



温水ボイラー室

▶▶▶ 被災企業、福祉作業所との連携による新たなビジネスモデル

同社は、これまでは自社製品を持たず、商社からの受注生産が主であった。しかし、独自市場を開拓するため、2016年岩手国体でのマスキングテープ「いわてわんこテープ」の開発販売を契機に、ラグビーワールドカップ2019釜石開催に向けた「フェイスシール」の開発を行い、既に、サンプルによる実証試験まで終了している。これらのデザインとパッケージは地元の福祉作業所が担当し、販売は沿岸地域の被災企業が行うなど、地域企業の連携による新たな事業に取り組んでいる。



福祉作業所との共同開発製品